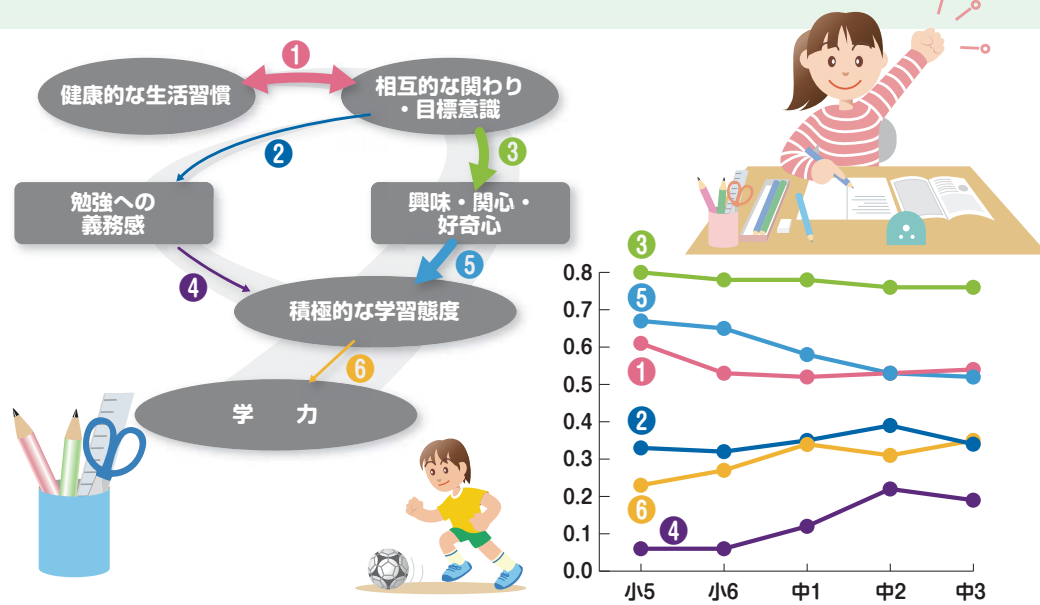


成長するにつれて、学習意欲の関連性は変化する

P2上図のような関係性は、子どもが成長するにつれて大きく変化していくことも明らかとなりました。



右上のグラフは、子どもの学習意欲を取り巻く要因の影響力が、成長するにつれてどのように変化していくかを表したものです（グラフの色および丸数字は左上の図（p2の図と同じもの）と対応）。縦軸の値はパス係数で、値は0から1の間をとります。0の場合は影響力は皆無で、値が1に近づくほど強い影響力を及ぼしていることを示します。

興味・関心・好奇心 から 積極的な学習態度 への影響力(⑤)は高い状態を維持しつつも成長するにつれて次第に減少し、逆に 勉強への義務感 から 積極的な学習態度 への影響力(④)および 学力 への影響力(⑥)が、成長するにつれて増加していく傾向がありました。これらの変化は、特に小6から中2にかけて大きくなっています。これは、この時期が子どもにとって「勉強」の意味が大きく変化する時期であり、進路選択の「手段」としての意味合いが相対的に増してくることを表すのです。

また、相互的な関わり・目標意識 から 興味・関心・好奇心 への影響力(③)および 健康的な生活習慣 との関係(①)は、どの学年でも一貫して強い関係性が保たれていました。つまり、規則正しい生活習慣と信頼できる人間関係は、子どもの成長過程に常に大きな影響を及ぼしているということです。それ故に、どちらも著しく損なわれることのないように、仮に損なわれたとしてもすぐに回復できるように、周囲の大人たちが配慮を重ね続けなければいけないポイントだと言えるでしょう。

発行元：学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 川島 隆太 (東北大学加齢医学研究所教授) | 筒井 健一郎 (東北大学生命科学研究科准教授) |
| 杉浦 元亮 (東北大学加齢医学研究所准教授) | 荒木 剛 (東北大学加齢医学研究所助教) |
| 庄子 修 (仙台市立富沢中学校長) | 堀越 清治 (仙台市立荒町小学校長) |
| 堀田 剛司 (仙台市教育委員会学校教育部長) | 針 弘 (仙台市教育委員会学校教育部参事) |
| 成田 忠雄 (仙台市教育委員会確かな学力育成室長) | 阿部 英伸 (仙台市教育委員会教育センター所長) |

事務局

- 藤森 幸 (仙台市教育委員会確かな学力育成室主幹)
 本郷 栄治 (仙台市教育委員会確かな学力育成室主任指導主事)
 新妻 英敏 (仙台市教育委員会確かな学力育成室指導主事)



規則正しい生活と信頼できる人間関係が確かな学力を生み出す!

—仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査における小5～中3の詳細な分析結果から—

学習意欲のバランス

- 小学校では、「知りたい気持ち」と「わくわく感」を大切に
- 中学校では、探究心を目標達成の原動力に変える指導を

健康的な生活習慣

- バランスのとれた食事を、なるべく家族みんなで
- 適切な睡眠時間は、確かな学力の礎に

家庭での語り

- 家庭での語らいを通じて、将来の夢の具体化を
- 子どもの「一生懸命な気持ち」を支える環境づくりを

生活・学習状況調査の目的

- ① 児童生徒の学習状況や生活習慣等について、全市的な規模で客観的な分析・把握を行う
- ② 各学校が、自校の成果と課題を分析・把握し、指導の工夫・改善を図る
- ③ 調査結果を、個に応じたきめ細かな指導の充実に生かす

調査内容(質問紙調査)

- 学校生活 ● 授業 ● 学習意欲 ● 家庭生活 ● 自由時間 ● 家庭学習
- 社会・地域との関わり ● 道徳心・挑戦・夢 ● 自分づくり

参加状況等

- ① 実施校数 全市立小学校125校 全市立中学校63校 中等教育学校1校
- ② 実施日 平成22年4月12日(月)～16日(金)
- ③ 有効回答数

学年	有効回答数	学年	有効回答数
小5	3,530人	中1	3,628人
小6	4,014人	中2	2,802人
		中3	3,031人

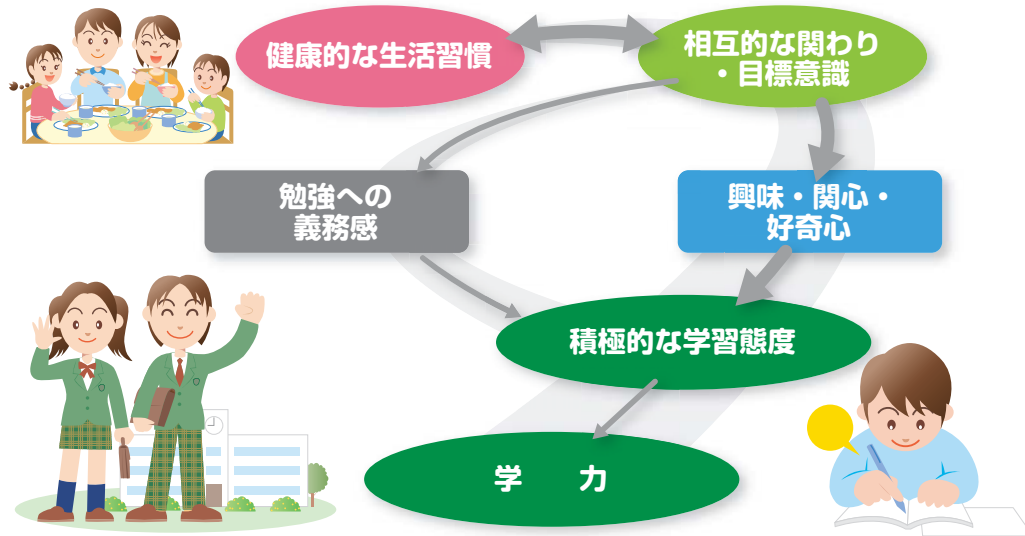
何が子どもの学習意欲・学習態度を支えているのか???

共分散構造分析による解析結果(小5～中3)

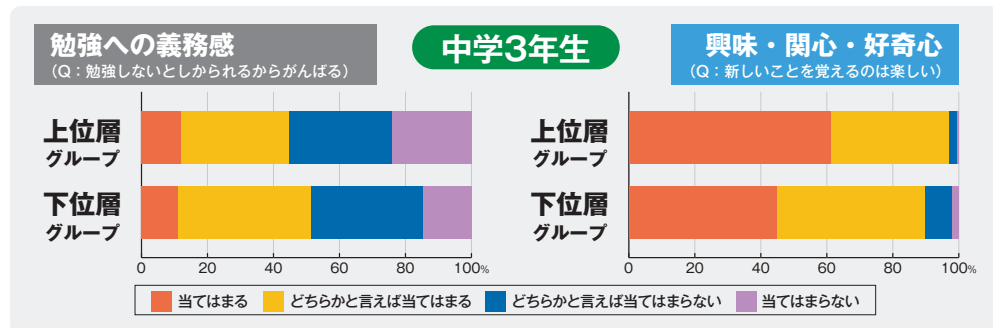
この図は、仙台市生活・学習状況調査(小5～中3)に用いた項目のうち、学習意欲と関連の強いものを抜き出して、各変数間の関係性を整理して表現したものです。特に影響力の強い関係は太い矢印で示してあります。

「家の人にしっかり話を聞いてもらう」など、子どもと大人との相互的な関わりと、そこから生じる「人の役に立つ人間になりたい」などの目標意識は、健康的な生活習慣と互いに影響を及ぼし合っています。それらが、子どもの学習意欲(「興味・関心・好奇心」や「勉強への義務感」)を高めていき、さらには学校・家庭における積極的な学習態度につながり、学力向上の原動力となっていることが明らかになりました。

学習意欲や学習態度自体を問題視するよりも、生活習慣や子どもとの関わり方を見直すことが、学力向上のきっかけとなる可能性があります。

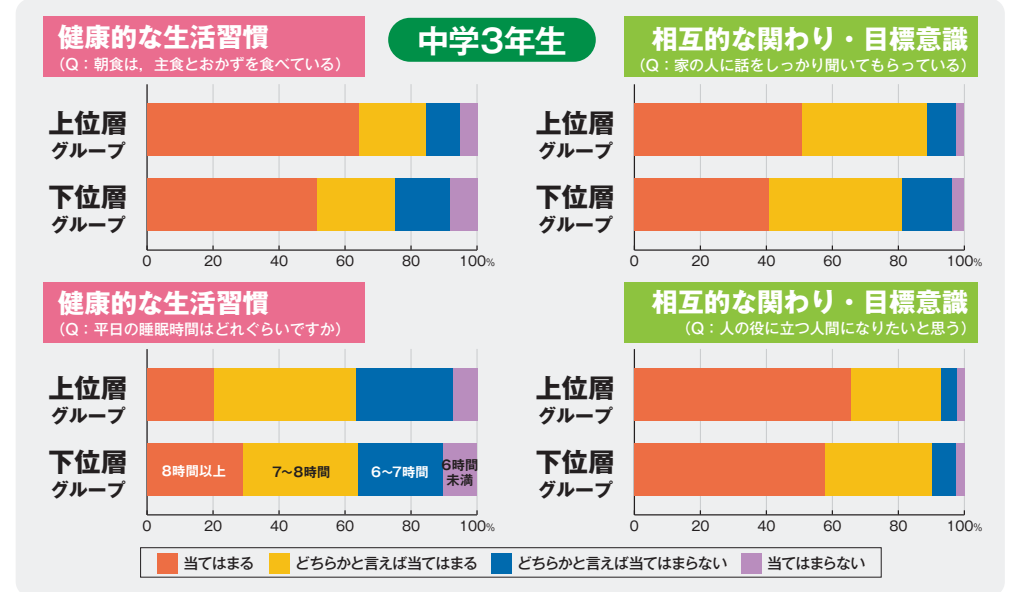


下のグラフは、中学3年生の仙台市標準学力検査の成績をもとに、上位層グループ(仙台市全体の上位25%に入る者)と下位層グループ(仙台市全体の下位25%に入る者)の間で、学習意欲の高さを比較したものです(グラフの横軸は各選択肢への回答の割合を表しています。選択肢は、「■当てはまる」、「■どちらかと言えば当てはまる」、「■どちらかと言えば当てはまらない」、「■当てはまらない」の4種類です)。上位層グループの方に強い興味をもって学習に取り組んでいる子どもが多く、義務感に駆られて仕方なく勉強する子どもは下位層グループの方に多いことが分かります。



毎日の生活習慣と人間関係のあり方が、学力に影響していく

上位層グループと下位層グループを比較してみると、生活状況に様々な違いがありました(グラフの横軸は各選択肢への回答の割合を表しています。選択肢の内容はp2下部のグラフと同じですが、睡眠時間に関してのみ、「6時間未満」、「6時間以上～7時間未満」、「7時間以上～8時間未満」、「8時間以上」となっています)。



上位層グループの子どもたちは全般的により健康的な生活習慣を身に付けており、家族・友人・教師との豊かな相互的な関わりを通じて自分なりに将来の目標をしっかりと思い描いている傾向が認められました。

保護者の皆様へ

- ◆ バランスのとれた食事は、お子様の学力の伸長を左右する大きな力を持っています。特に、朝食はお米を主食として、タンパク質(肉・魚・豆類)とビタミン・ミネラル(野菜・果物類)の豊富なおかずを出来るだけ添えましょう。
- ◆ 長すぎず短すぎず、適切な睡眠時間を確保させましょう。睡眠は脳の成長にとって非常に重要です。
- ◆ 家庭内でお子様の話を聞く時間をなるべく多く作ってください。会話が豊かな心を育てていきます。

教員の皆様へ

- ◆ 小学校では「学ぶこと」自体の面白さを実感できるような工夫を、中学校では将来の進路設計に結び付けられるような目標設定の支援をしましょう。
- ◆ 自分の思いや考えを分かりやすく表現する力は、社会性はもちろん、全ての学力の基礎となります。